

アンラボ・セキュリティレター

Press **Ahn**

2020.11 Vol.83

AISF 2020、今年と来年のセキュリティ市場のトレンドは？



セキュリティ市場の動向分析

AISF 2020、今年と来年のセキュリティ市場のトレンドは？

様々な場面において、我々の暮らしの有り様を変えた新型コロナウイルス感染症、その最も大きな変化のうちの一つとして、アンタクト（非接触・非対面）トレンドが挙げられるだろう。アンラボでも、2009年よりオフラインにて行われていた、恒例カンファレンス AhnLab ISF をオンラインへと移行し、新たな挑戦に試みた。今年初めに非対面式で行われた AhnLab ISF 2020 バーチャルカンファレンスは、どのような様子だったのか？今回の記事は、カンファレンス AhnLab ISF の主な内容を紹介する。



10月21日～22日、アンラボは「AhnLab ISF 2020 バーチャルカンファレンス」を開催した。

今回のカンファレンスは、ニューノーマル時代、デジタルトランスフォーメーションの加速化によるセキュリティ戦略と、インサイトの共有を目的として催された。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、今年初めてオンラインプラットフォームを用い、非対面式で行われた。

今回のカンファレンスは、両日合わせて累計参加者数1,400人を記録し、セキュリティに対する熱い関心とセキュリティ知識の共有プラットフォームである、AhnLab ISF の強固な立場が確認された。

1日目の「Market & Tech Trend Day」は、今年のセキュリティ市場の動向、および主要技術トレンドに関する内容で構成された。また、2日目の「Demo & Case Study Day」では、実質的なセキュリティ技術ノウハウと、ソリューション導入の模範事例が発表された。

両日とも発表セッション終了後、「Live Talk」コーナーを通して、参加者達の様々な疑問に対して各発表者が直接回答する時間を設けた。

ふんだんに盛り込まれたコンテンツを披露した今回の「AhnLab ISF 2020 バーチャルカンファレンス」。その主な発表内容を、キーワード別に整理した。

新たなトレンドと脅威の形

AhnLab ISF 2020 バーチャルカンファレンスでは、アンラボの姜錫均（カン・ソッキョン）代表によるオープニング映像と共に幕を開けた。

カン・ソッキョン代表は、今年の ISF をバーチャルで行うことになった背景と、セキュリティ分野におけるニューノーマル、そして、デジタル融合セキュリティ中心のビジネス戦略である「AhnLab 4.0」を紹介し、今回のカンファレンスに対する期待感を高めた。



[図1] アンラボ カン・ソッキョン代表

ジョン・ソンハク研究所長も同様に、2日目のオープニング映像にて、変化したトレンド、およびこれに対応する新たなセキュリティ技術を紹介し、大きな枠組みでのニューノーマルセキュリティ戦略を発表した。



[図2] アンラボ ジョン・ソンハク研究所長

持続的に変化する攻撃と、セキュリティ戦略に関し、EP 事業企画室のイ・サングク常務は「何を保護し、どうセキュリティするのか?」という話題を提示しながら、保護対象の価値算定による、優先順位設定の重要性を強調した。

保護対象の優先順位の確立を先行することで、既知の脆弱性や未知の脅威、見えない脅威を正確に検知し、効果的に対応することが可能だと説明した。

アンラボセキュリティ対応センター (ASEC) のハン・チャンギョ常務は、社会工学的観点から、攻撃と防御の終わりのなき戦争の過程に焦点を当てた。ハン・チャンギョ常務は、IT 技術の発展により、攻撃対象が拡大することで、攻撃そのものが組織化、および分業化していると指摘した。また、社会工学的な技法を活用する際、最も脆弱な部分は人であり、セキュリティソリューションが攻撃者からの全ての迂回技法を検知することは難しいと説明した。

これに関する対応方法としては攻撃者の収益性を下げること、すなわち、疑わしいファイルダウンロードの阻止やセキュリティパッチ等のセキュリティルールを順守し、事前に攻撃を遮断することで、成功までに要する費用と時間を増加させるよう勧告した。



[図3] 上：アンラボ EP 事業企画室 イ・サングク常務

クラウドセキュリティ：皆が注目する HOT トレンド

確固たる動向として定着したクラウドコンピューティングは、新型コロナウイルス感染症の流行により、さらに注目される分野となった。アンラボは、「AhnLab CPP」のリリース等、クラウドセキュリティ分野でも拍車をかけており、今回のカンファレンスでも、様々なクラウドセキュリティテーマを扱ったセッションを組み込んだ。

まず、ノ・ヨンジン R&D 常務は、クラウドネイティブ環境と、マイクロサービス (microservices) に対する要求事項を紹介し、これに符合するクラウドセキュリティ戦略を発表した。クラウドワークロードを保護する CWPP の概念と、クラウドネイティブセキュリティ構造の「Build-Ship-Run (構築 - 移動 - 実行)」に関する、適切かつ自動化されたセキュリティ適用の重要性についてカ説し、参加者達の理解を深めた。



[図 4] アンラボ ノ・ヨンジンR&D常務

アンラボサービス事業企画チームのクァク・ヒソンチーム長は、管制サービスの観点から、クラウドセキュリティに焦点を当てた。オンプレミスとクラウド使用企業間のインフラ構成環境、そして攻撃の相違点を指摘しながら、クラウド使用企業には、Web 基盤の攻撃が向けられる割合が高いと明かした。

続いて、長年のノウハウが蓄積されたアンラボのクラウドセキュリティ管制サービスの構造、および特徴を紹介する時間を設けた。

1日目の最後のセッションを担当した、スパイスウェア (Spiceware Co., Ltd.) のキム・グンジン代表は、クラウドデータセキュリティを多角的に検討し、正確性、迅速性、および効率性向上のための、自動化システム導入の必要性と、スパイスウェアを活用した、クラウドデータセキュリティの強化方案を提案した。

様々な事例で見るエンドポイントセキュリティ

ハッカーが、主な攻撃ポイントとしているエンドポイント。これに対するセキュリティ方案は、企業およびセキュリティ担当者達の最も大きな関心事の一つである。

「V3」から「AhnLab EDR」、「AhnLab EPP」に至るまで、プラットフォーム化されたエンドポイントセキュリティの力量を提供してきたアンラボは、様々なエンドポイントセキュリティノウハウ、および適用事例を基に、参加者達がより実感しやすいセッションを用意した。

アンラボ EP コンサルティングチームのオ・サンオンチーム長は、アンチウイルス中心だったエンドポイントセキュリティの再定義とプラットフォーム、および選別ルールを基盤としたエンドポイント統合管理の必要性を強調した。

また、次世代エンドポイントセキュリティプラットフォームの「AhnLab EPP」を活用し、セキュリティ脆弱性 PC の情報流出対応体系、および情報流出の疑いがあるシステム対応体系を構築した事例を紹介し、参加者達が適応方案をより実質的に汲み取るようにした。

EP 技術支援第一チームのウォン・ナムホチーム長も同様に、続くセッションにて、エンドポイントセキュリティの運営ノウハウと、実際の事例を発表した。特に、企業の事業規模と、セキュリティの現況別に様々な「EDR」導入ケースを提示し、別途セキュリティに人員を割けられない中小企業から、高度化されたエンドポイントセキュリティの実現を試みる大企業まで、両社ともに参考にできるような発表内容を構成した。



[図5] 上：アンラボ EP コンサルティングチーム オ・サンオンチーム長

ネットワークセキュリティ：安全なリモートワーク環境作り

新型コロナウイルス感染症の流行により、在宅ワークが増加することで、リモートワークの必須ソリューションである VPN (Virtual Private Network) の導入が大幅に増加した。

さらに、皆が新たに向き合う環境だけでなく、VPN を活用したリモートワーク導入方案と、そのノウハウの共有が必要であった。

アンラボ NW コンサルティングパートのジョン・スンジェ部長は発表を通し、VPN 活用のための考慮点と、「AhnLab TrusGuard」の導入効果、および実際の事例を共有した。

ジョン・スンジェ部長は、VPN を導入するに先立ち、▲ユーザーの現況分析、▲VPN アカウント作成およびセキュリティ方案設定、▲端末のセキュリティ性確立、▲悪性トラフィックの流入遮断が先行するべきであると強調した。続けて、「AhnLab TrusGuard」により、安全なリモートワーク環境を整備した、IT ビジネス企業のA社を実際の事例として提示した。

発表内容によると、A社はグループ別アクセスシステムとサービス、またアクセス時間を指定し、VPN ログインが可能な時間を制御した。アカウントセキュリティについては、「TrusGuard」と「OTPソリューション」を連動し、VPN 認証に使用するよう構成した。これ以外にも、「AhnLab TrusGuard」から、AOS (AhnLab Online Security) をダウンロードし、不正なプログラムを検知かつ遮断したり、IPS 機能を活用することで、悪性トラフィックまで遮断するなど、リモートワーク環境作りの模範事例として挙げられた。

セキュリティの新境地を開く新技術 : SOAR & AI

攻撃が高度化され、セキュリティポイントが増え続ける昨今、サポートの効率性と、正確な検知能力向上のため、新技術が注目を浴びている。

代表的なものとして、SOAR (Security Orchestration Automation and Response、セキュリティ運用の自動化および効率化) と、人工知能 (AI) が挙げられる。アンラボが去年リリースした、SOARソリューション「AhnLab Sefinity AIR」は、様々な産業グループにおいて、続々と顧客企業を確保し巡航している。また、今年に入って AI セキュリティスタートアップ企業の「JASON」を買収し、AI セキュリティの強化にも力を入れている。今回のカンファレンスでも、両分野に関する発表セッションが設けられた。

アンラボサービス営業本部のキム・ビョンソン部長は、業務を手動で処理する際、スピードおよび品質低下による、ビジネス競争力の減少を指摘し、人と機械が有機的に協力しあえるようサポートする、SOAR の必要性について力説した。

また、数種類の攻撃ケースに応じて、業務の手続きマニュアルを提供してくれる、プレイブック (Playbook) の活用を積極的に勧告した。続けて、20年余りにわたる、アンラボセキュリティ管制サービス技量が反映された、「AhnLab Sefinity AIR」の特徴と、実際の運営例を披露した。

最後に、JASON のキム・ギョンファ代表は、自社のAI異常兆候検知システム「JMACHINE」と、▲AI 統合管制、▲AI 精密検知、▲AI 自動検知、▲AI 未来予測、▲AI 自動対応にて構成された、核心機能を紹介した。

あわせて、ダッシュボードも試演しながら、「JMACHINE」を基盤に、セキュリティの強化を行った2つの企業を事例として提示し、ソリューションについて踏み込んだ説明を加えた。



[図6] 上：アンラボ サービス営業本部 キム・ビョンソン部長

Live Talk : 「セキュリティ専門家」が生ライブで質疑応答

アンラボは、豊富な発表セッションの構成だけにとどまらず、「参加者とコミュニケーションをとる」という本来の趣旨に沿い、1日目と2日目の発表者達が、参加者達の質問に生ライブで回答する、Live Talk コーナーも行われた。多くの参加者達が、事前登録時の質問と、ライブチャット上での質問から、クラウドセキュリティ、ランサムウェア、エンドポイントセキュリティ、リモートワーク等の様々なテーマに関し、質疑を投げかけた。発表者達は、両日あわせて28個の質問に直接回答し、参加者達の主な疑問点を解消した。



[図7] Live Talk 現場

新たな歩み、意味ある挑戦

アンラボにとって、AhnLab ISF 2020 バーチャルカンファレンスは、踏み入れたことのない道に突き進む、新たな挑戦であった。10余年間、オフラインプラットフォームで開催されてきた大規模カンファレンスを、電撃的にオンラインへと移行したことで、いくつもの新たな挑戦課題に直面してきたが、これらを聡明に克服し、顧客とのコミュニケーションを図ってきた。構成面においても、いくつものセキュリティ分野を深層的にまとめた発表セッションと、内容を効果的に視覚化した映像で、参加者達に有益な情報を伝えた。

顧客とのコミュニケーションのため、アンラボの努力は、今後も対外環境に関係なく続いていく。まだ、どのような歩みになるか予測はできないが、2021年も ISF は顧客の安全なセキュリティ環境を構築するため、様々な知識とインサイトを提供する予定である。

AhnLab ISF 2020 バーチャルカンファレンスの再視聴に関しては、11月4日(水)午前11時より、アンラボ公式 YouTube チャンネル、および別途ウェブページから公開されている。



<http://jp.ahnlab.com/site/main.do>

<http://global.ahnlab.com/site/main.do>

<http://www.ahnlab.com/kr/site/main.do>



アンラボとは

株式会社アンラボは、業界をリードする情報セキュリティソリューションの開発会社です。

1995年から弊社では情報セキュリティ分野におけるイノベーターとして最先端技術と高品質のサービスをご提供できるように努力を傾けてまいりました。今後もお客様のビジネス継続性をお守りし、安心できるIT環境づくりに貢献しながらセキュリティ業界の先駆者になれるよう邁進してまいります。

アンラボはデスクトップおよびサーバー、携帯電話、オンライントランザクション、ネットワークアプライアンスなど多岐にわたる総合セキュリティ製品のラインナップを揃えております。どの製品も世界トップクラスのセキュリティレベルを誇り、グローバル向けコンサルタントサービスを含む包括的なセキュリティサービスをお届け致します。

AhnLab

〒108-0014 東京都港区芝4丁目13- 2 田町フロントビル3階 | TEL: 03-6453-8315 (代)

© 2020 AhnLab, Inc. All rights reserved.